

汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

1.利用情報

教育機関名	青山学院大学
学部・学科名	社会情報学部
コース名・講座名等	システム分析設計基礎
対象学年・受講者数	2 年次 62 名 (講座等の履修登録者数を記載してください)
講座実施期間	2014 年 9 月 ~ 2015 年 2 月
利用コンテンツ名 (該当□をプルダウンで■にしてください)	<input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ
	<input checked="" type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ
コンテンツの利用形態 (該当□をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください)	1.利用したコンテンツ
	<input type="checkbox"/> ①シラバス
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド
	<input type="checkbox"/> ③講義ノート
	<input type="checkbox"/> ④演習課題
	<input type="checkbox"/> ⑤各種設計書
	<input type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例
	<input type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド
	<input type="checkbox"/> ⑧受講レポート
	<input type="checkbox"/> ⑨ソースコード
2.コンテンツの利用方法について	
<input type="checkbox"/> 1.教育コンテンツ全てをそのまま利用	
<input checked="" type="checkbox"/> 2.教育コンテンツの一部をそのまま利用	
(利用範囲) ユースケースに関する部分	
<input type="checkbox"/> 3.教育コンテンツを改変して利用	
(改変範囲)	

講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す			
単元と時間配分(1コマ= 90 分で実施)			
*短期集中講座の場合は、日単位で結構です		講義形態 (座学、個人演習、チーム演習)	単元でのコンテンツ利用の有無
1	オリエンテーション 現代社会と情報システム	座学	無
2	システムライフサイクル システム開発プロセス	座学	無
3	要求分析(1)	座学	無
4	要求分析(2)	個人演習	無
5	モデリング(1)	座学	無
6	モデリング(2)	個人演習	有
7	モデリング(3)	個人演習	有
8	モデリングのまとめ	個人演習	無
9	ISの人的機構と機械的機構	座学	無
10	総合演習(1)、(2) 現状業務のモデル化	チーム演習	有
11	総合演習(3)、(4) 現状業務のモデル化	チーム演習	無
12	総合演習(5)、(6) 在庫管理	チーム演習	無
13	総合演習(7)、(8) 業務改善	チーム演習	無
14	総合演習(9) 改善後の業務フロー	チーム演習	無
15	総合演習(10) プレゼン	チーム演習	無
特記事項			

コンテンツ利用の狙い・目的	ユースケース図、ユースケース記述に関する教育のがめ
講座の位置づけ 学生の履修前提条件	情報システムを構築する際、利用者の活動上のニーズを的確につかんだ上で情報システムを設計していく必要がある。この講義では、情報システム開発の前段階として、「どのような情報システムを開発するか」を検討する要求定義のプロセスと方法などのシステム分析に関する基本的な知識・手法ならびに情報システムの設計に関する基本的な知識・手法について理解することを目的とする。
授業の進め方	各授業は、基本的に座学と演習に組み合わせによる。後半の演習はグループ学習で行う。教科書として、「石井信明, 宮川裕之:プロフェッショナルを目指すシステム分析入門—情報システムの企画・計画のプロセスと分析手法, コロナ社(2009)」を利用し、必要な資料をLMSにより配布する。

2. 講座実施後の情報

受講者の感想 (本講座で得られたもの)	「情報システム」に関する科目でシステム分析・設計を柱とした上流工程に関する授業であるが、受講生からはシステムをデザインするという視点があることに気がついたという感想が多い。
教員の評価	3年時に配置されている産学連携教育の「システム分析設計応用」の前提科目として、この「システム分析設計基礎」を位置づけているため、「システム分析設計応用」と本科目との教育内容の関係性に留意し、両科目を同期させつつ授業計画を立てている。
今後の展望 (継続に向けた課題)	次年度以降も本科目は実施され、ユースケースに関するコンテンツを利用する。